

医科研病院だより



第15号

発行：東京大学医科学研究所附属病院
平成24年4月15日
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
代表電話03-3443-8111
ホームページ <http://www.transrec.jp/>

CONTENTS

所長からのご挨拶	1
すこやか・カフェ	2
栄養サブリ	3
なんでも・ひろば	4

所長からのご挨拶

所長 清野 宏

今年、当研究所創始者であられる北里柴三郎先生が伝染病研究所を起こされてから120年、そして現在の医科学研究所に改組されてから45年をという、記念すべき節目の年を迎える事が出来ました。これもひとえに我が国唯一の研究所に併設された病院として、日夜最先端・先進的医療を患者様に届ける為に、献身的な努力をされている病院の皆様のおかげです。この素晴らしい年をただ祝うのではなく、120年という伝統は大切にしながらも、“IMSUT One to Gogo”の達成に向けて医科研の継続的進化の為に革新的な第一歩を皆様と一緒に踏み出す年として、一層気持ちを引き締めて参る所存でございます。

医科研の正門の前に病院の皆様のご協力もあり、新しい医科研と病院の看板が設置された事はご存じでしょうか。この看板は円形をしています、次の三つの思いが込められています。

1. 円形は地球を意味し、医科研が世界の頂点を目指す決意を新たにしました。
2. また、円形は日本語で「わ」と言います。つまり「和」そして「絆」意味しております。世界の頂点に立つためには、所と病院の卓越した個の力の結集が不可欠です。
3. 医科研病院が表記の一番上にございますが、これは医科研の原点は「真理探究に基づく実学、つまり病気から学びそしてそれを予防・治療として医療に戻す」であり、その視点から研究所と病院の一体化の益々の重要性を常に念頭に、日々の医科学研究を推進することを願ひまして、その思いを込めたものでございます。(ノ)

(ノ) 当研究所のミッションは何よりも、世界の先端医科学研究を継続的に先導し、病気で悩んでいる患者様の為、医療に反映できる基礎・臨床研究基盤とその成果を世界に向けて発信し、人類の病気との戦いに貢献するという事につきますと思います。その志は、北里先生が、開所後直ちに附属病院を開院されたことに表れています。その理念は医科研のDNAとして、我々の研究・診療活動に摺り込まれており、永遠に継承されるものです。その視点からも「Bench to Bed, Bed to Bench」という基礎・臨床双方向性相乗の研究推進の環境構築が重要であり、より一層、病院を有する唯一の大学附置研究所としての研究所と病院の一体化が、益々必要になってくると考えております。それを大きな特徴として、研究所と病院が国際的通用力と国際的魅力ある姿に進化していけるように、皆様と一緒に2012年は大きな第一歩を踏み出したいと思ひます。

“IMSUT One to Gogo : We are the TEAM IMSUT for Top of the World !!”



所長室にて



正門前の看板

◆病院からのお知らせ◆

- 臨床検体の取扱いにつきまして
当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は
http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT_ORE_7.html
をご覧ください。

すこやか・カフェ



アレルギー免疫科から

～ステロイドの温故知新～

アレルギー免疫科診療科長 田中 廣壽

私どもの診療科は主にリウマチ膠原病などの自己免疫疾患の診療を担当しております。病気の仕組みもさることながら、ステロイド（副腎皮質で作られる糖質コルチコイドホルモン、あるいはその合成化合物）や免疫抑制薬、そして生物学的製剤などの治療薬に関しても、患者さんにはわかりにくく、抵抗感をお持ちの方も少なくありません。そこで、今後、このような場を借りて話題を提供し、皆様の疑問の解消などに少しでもお役に立てればと考えております。初回のテーマは、当科で最も頻繁に処方されるクスリ、ステロイドです。

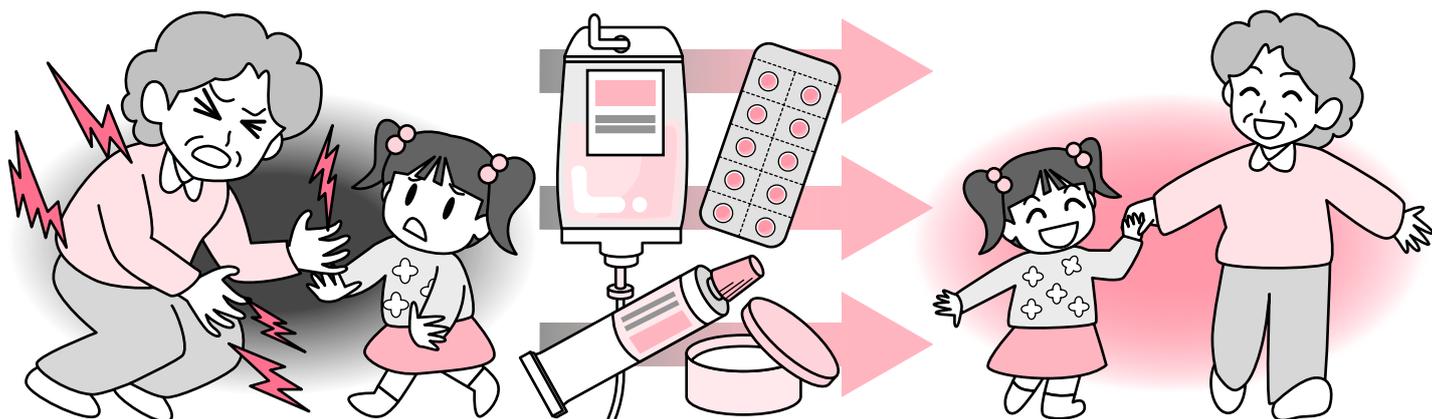
ステロイドの歴史は古く、第二次世界大戦において兵士の戦闘能力を高めるなどの軍事目的でドイツや米国を中心に研究が進みました。この辺の話は007シリーズなどでも登場します。1950年にリウマチにおけるステロイドの劇的効果によってHench博士らがノーベル生理学医学賞を受賞したのを契機に爆発的に普及しました。現在使用されているプレドニゾロンなどの合成ステロイドの多くはこの時代に開発されたものです。とても歴史のある（＝古い？）クスリです。ステロイドによって生命予後が劇的に改善された疾患は数知れず、今でも多くの疾患の「特効薬」です。生物学的製剤などの新薬の登場によりリウマチ診療は劇的に変わりましたが、ステロイドに取って代わりうるクスリは登場していません。ステロイドの使い方も膨大な経験によってかなり整備されております。ただ、常にリスク（副作用）を伴うため、私たち医師も、「この患者さんに対するベストの治療はなにか？ステロイドを使うとすると、最も良い使い方は？」を話し合っ、「最善の個別化医療」を提供したいと努力しています。医師は、使う理由(必(メ

(メ)要性)、のみ方、副作用、生活上の注意、などを理解していただくよう努力しておりますが、お困りの点などあれば遠慮なく医師に伝えてください。なお、ステロイドの減量や中止は、あくまで医師の了解のもとに行ってくださいよう、くれぐれもお願いいたします。

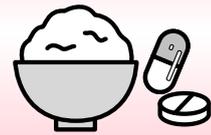
一方、分子生物学などの進歩とともに、新しい展開も見られています。ステロイド（鍵）はその標的分子（鍵穴タンパク質）である受容体につき、その働きをオンにする精巧なスイッチです。ステロイドの受容体はゲノム情報の発現を調節する転写因子であり、ステロイド治療とは「薬剤による遺伝子発現制御」にほかなりません。しかし、受容体は1種類なので作用を出すと同時に副作用も出ます。現在、動かしたい遺伝子（＝作用）と動かしたくない（＝副作用）遺伝子を区別する新しいスイッチの開発も盛んに行われています。また、副作用の遺伝子を動かさなくするという戦略もあります。ステロイド投与後筋肉がやせ細り生活に困る患者さんがいらっしゃいます。私たちは、筋肉でステロイドが動かす遺伝子を見つけて筋萎縮の仕組みを解明し、その「止め方」を開発しました。現在、効果を確認するため臨床試験を行っています。今後も患者さんの日々の問題解決につながる研究を医科研病院から発信していきたいと思ひます。ステロイドにも新しい展開があることを少しでも感じていただけましたでしょうか。まさに「温故知新」です。

日本リウマチ財団ニュースNo.109（2011年11月号）に私どもがステロイドについてお話した記事が掲載されておりますので関心のある方はご一読ください（<http://www.rheuma-net.or.jp/rheuma/index.html>）。

なお、リウマチ膠原病診療やステロイド筋萎縮に関する臨床試験などに関するお問い合わせはアレルギー免疫科外来医師までお寄せください。



栄養サプリ



風が吹いても痛い！？痛風

痛風って
どんな病気？
??



- 尿酸**
1. 体の中でつくられる
 2. 食事中のプリン体から分解される

余分になった尿酸は…
尿中などから排せつ

尿酸値が上がると…

体の中で結晶化
沈着 炎症

放置すると…

**腎不全！
透析！**

ならないように
コントロールが大切！



《 食品100g中のプリン体含有量 》

極めて多い(300mg以上)		多い(200~300mg以上)		少ない(50~100mg以上)		極めて少ない(50mg以下)		
鶏レバー	鰹節	豚レバー	いわし	豚ばら肉	ボンスハム	さつま揚げ	豆腐	米飯
まいわし干物	煮干し	牛レバー	大正えび	豚ロース	プレスハム	魚肉ソーセージ	鶏卵	パン
白子	干椎茸	カツオ	あじ干物	うなぎ	ベーコン	牛乳	じゃが芋	野菜類
						チーズ	さつま芋	

★食事のポイント★

■太り気味の方は減量しましょう

減量
(ゆっくり確実に)

※太っていると尿が酸性になりやすく、結晶化して尿路結石ができてやすくなります。

■水分を積極的にとります (就寝前にコップ1杯の水分を)

※水分を十分にとって尿量が増えると、尿酸の排泄量が増えます。
※1日の尿量が2リットル以上になるように。

■野菜を十分にとります

※野菜、いも類、海藻類等のアルカリ性食品をとることによって尿をアルカリ性に保ち、尿酸の結晶化を防止します。

■プリン体を多く含む食品です (尿酸値の高い方は控えましょう)

※プリン体は水に溶けるので、肉汁や鶏ガラスープ(ラーメンスープ等)にも注意しましょう。

■基本は禁酒です

飲酒については、医師に相談してください。
飲酒による影響をできるだけ抑えるため、以下の量にとどめることをおすすめします。

ビール500ml (中ビン1本)
日本酒180ml (1合)
ウイスキー60ml (ダブル1杯) (いづれか1つ)

休肝日を必ず
つくりましょう

※飲酒による影響……①尿酸の合成を促進
……②腎臓からの排泄を抑制

